

中山間地は日本の原点。守ります、築きます、中山間地域の暮らしを!

県政をもっと身近に!

県政報告

第18号

令和6年1月

島根県議会議員

高橋まさひこ

高橋まさひこ事務所 〒699-1251 島根県雲南市大東町大東1888 TEL0854-43-8057



混とんから照明へ!。
60年に一度の甲辰の幕開けは、震度7の能登半島地震で始まり、翌二日には救援に向かう海上保安庁と日本航空の飛行機が羽田空港滑走路で衝突・炎上するという驚くべき出来事が相次ぎました。

また、キックバック、裏金という聞き馴れない言葉に首をかしげた政治の場では現職の国会議員が逮捕されるなど、まさに予断が許されない波乱含みです。

大災害からの復興と同様、政治への国民の信頼回復には気の遠くなるような困難な作業が待ち受けているに違いありません。大切なものを失って初めて気づくのは人間社会ではよくある話ですが、人の命と財産を守るのが第一義の政治の場では許されないのはい言までもありません。

力を合わせ平穏な日常に幸せを感じる第一歩から再スタートを切りましょう!



樋の谷峠を越える「下久野トンネル」。全長2241mで一直線。暗闇の向うに見える小さな光明。混とんの情況から抜け出すのに勇気がわいてくる。一見の価値あり。

木次線の「奥出雲おろち号」から「あめつち」に向けて



堀江晴俊・雲南市蒸気機関車C56108保存会会長

昨年11月23日、木次線で26年間親しまれた「奥出雲おろち号」が沿線の多くの方々の見送りで運行を終了しました。おろち号は木次線の利用促進と観光列車として、備後落合駅構内での機関車の付け替えを省略するため、備後落合行きの場合には機関車を後部に連結し、先頭車の一部を運転席として改造された運転席から最後部の機関車(無人)を制御する後押し(プッシュ)。

木次行きは機関車が牽引する(プル)する通称プッシュプル方式として、また、トロッコ車両は窓の全面開放と沿線の風を満喫しながらの構造。JR西日本管内では非常にめずらしい運転方式として運行され、冬期は編成をばらして機関車にラッセルヘッドを取り付け、積雪時にはラッセル列車として木次線の運行を確保してきた姿は全国の鉄道ファンから人気の的でした。

改造されたトロッコ列車は1970年の大阪万博当時の臨時列車増発に向けて製造された車両で、

車歴も50年を過ぎ車両維持にも限界を迎えていました。

おろち号運行終了を期に、地元自治体として新製への財政支援を行う用意があるとJR西日本へ申し出たものの、あっさりとは支援を受けても新製はしないとの返答があり、代替えとして木次線の観光列車として、「あめつち(天地)」の入線が予定されています。

しかし、元々平坦地区を運行していた車両の改造車で車両性能から出雲横田〜備後落合間の運行予定がなく、日本で2ヶ所だけとなった三段式スイッチバック区間には入線しません。「奥出雲おろち号」とは全く違うコンセプトになり、運行日も減少し、快速のグリーン車扱いとなります。

全国的には「あめつち」同様の観光列車は各列車ともその地方を全面的にアピールする観光列車として数多く運行されています。木次線の「あめつち」として地元沿線としての「本気度」が試されることとなります。

今後は、沿線の周遊性を高めるための観光振興など木次線の活性化へ向け、次のステップへ進むこととなりました。力をあわせましょう!

令和五年十一月定例会

(十月二十七日〜十二月二十日)

高橋まさひこ一般質問

- ① 年末対策について
- ② トロッコ列車廃止後の取り組みについて

① 年末対策について

問 県が創設した新型コロナウイルス感染症対応資金、いわゆるゼロ口融資の返済状況と今後の資金繰りの方向性は?

答 新田 誠・商工労働部長

ゼロ口融資の返済状況は、10月末時点で融資実績件数の約7割が返済を開始し、そのうち3割が返済の据え置き期間中となっている。また、利用実績は融資実績の約3割にあたる延べ2,666件。今後の資金繰り支援については、国の補償制度を活用した借換資金により、借入金の返済原資の確保や新たな資金需要に対応し、事業者が借入金の返済を進めながら経営改善や新規事業などに取り組めるよう支援したい。

問 物価高騰により厳しい生活が続いている中、自立相談支援機関での相談状況、生活保護の申請状況、生活福祉資金の貸付状況は?

答 安食治外・健康福祉部長

10月末時点での生活困難や不安を抱える方の新規相談件数はコロナ禍前の令和元年と比較し、同程度の月平均119件、生活保護申請件数は月平均56件と一割強の増加、生活福祉資金については、月平均11件と下回る状況です。

問 物価、燃料の高騰などのコスト増に対応した取り組みは?

答 新田・商工労働部長

事業者の収益力向上を図るため、自動化による生産工程の省力化、新たな商品やサービスの開発につながる設備導入、またデジタル技術を活用して業務の効率化や生産性向上を図る取り組みを支援している。さらに、燃料や電気などのエネルギーコストの高騰への対策として省エネ設備導入への支援を行っている。昨年度から実施し、

総じて好評を得ているので事業の継続を検討している。

答 野村良太・農林水産部長

燃料高騰対策については、現在、国の事業として施設園芸の加温に使用する燃料コストへの補填事業が実施されており、県としては保温効果の高いハウス整備や資機材の整備への支援を行っている。また、肥料価格の高騰対策は、化学肥料の使用量を低減する取り組みを行う地域に対して土壌診断費用の一部を助成するなど支援。

畜産飼料価格高騰対策は、国が実施する配合飼料コストへの補填事業について、上乘せ補填及び輸入粗飼料に対する県独自の補填を継続実施している。

② トロッコ列車廃止後の取り組みについて

問 26年間のトロッコ列車運行が地域にもたらした貢献についての評価は？

答 丸山達也・県知事

トロッコ列車は運行終了まで、延べ36万人の方々に乗車いただき、風光明媚な景観の中を走る姿を撮影するために来訪された方々も多く、全国的にも珍しい3段式スイッチバックを体験でき、窓がない開放的な車両で貴重な観光資源でした。さらに、沿線住民の皆様の様々なおもてなしを頂きました。

今後観光列車「あめつち」が運行される予定であり、引き続き沿線住民の皆様のご協力と、沿線地域への観光客を牽引する存在としての活躍を期待しています。沿線の市町村と連携し沿線の魅力の発信に努めます。

問 観光列車「あめつち」の運行計画と期待される効果は？

答 新田・商工労働部長

春、秋の行楽シーズンを中心に、主に日曜日と月曜日に米子駅と出雲横田駅の間を年間30回から40回運行される予定。また、車両には、出雲織や石州瓦などを使った装飾が施され、車内では日本酒などの特産品の販売や地元食材を盛り込んだ特選弁当を用意。沿線の魅力を堪能できる工夫がされており、加えてガイドが乗車されて沿線の観光案内もされると聞いています。

問 観光列車「あめつち」の終点である出雲横田駅以南にある観光拠点に対しどのように誘客を図っていくのか？

答 新田・商工労働部長

本次線の普通列車を利用するもの、またあめつちを利用するもの、それぞれについて協議会と複数の旅行会社の間で旅行ツアーが企画され、既に実施されています。

問 利用促進の取り組み状況と芸備線と連携した取り組みは？

答 藤井洋一・地域振興部長

3名以上のグループで本次線を2区間以上乗車した利用者に対し、JR運賃や駅から目的地までに利用する貸切バスなどの経費の一部助成制度。

県内外から広く観光客を呼び込むためツアーの造成などに取り組みましたが、昨年度は約4,100人でしたが、今年度は約7,600人(10月末)を超える状況。

問 生活交通、観光振興、双方の観点での地方路線の維持について

答 藤井・地域振興部長

利用客減少に歯止めをかけることが重要。引き続き、積極的な利用促進を図ってまいります。

令和5年度 11月補正予算

1 国の経済対策を受け、エネルギー価格・物価高騰対策や国土強靱化対策など、早急に対応すべきものについて 総額223億円

(1) エネルギー価格・物価高騰対策 31億2200万円
・LPガス消費者への支援 (6億1300万円)
・特別高圧電力利用者への支援 (2億200万円)
・医療機関、社会福祉施設等への支援 (5億800万円)
・事業者の省エネや生産性向上のための支援 (17億9900万円)

(2) 医療・介護・障がい福祉分野の職員に対する処遇改善 4億7800万円
看護補助者、介護・障がい福祉分野の職員を対象に、R6年2月～5月の収入を引き上げるための補助金を医療機関、事業所等に交付。

(3) 保育所等における性被害防止対策 1400万円
プライバシー保護のパーテーションや保護者の安心に応えるカメラ等の設置に必要な経費の支援を実施。

(4) 林業・木材産業等の生産基盤の強化 4億300万円
・間伐材生産や路網の整備を支援
・花粉の少ない苗木の生産拡大に向けた整備等を実施

(5) 公共事業 182億8600万円
国土強靱化対策やTPP対策等を実施

2 エネルギー価格・物価高騰対策の期間延長のほか、早急に対応すべきものなどについて 総額10億円

(1) エネルギー価格・物価高騰対策の期間延長 2500万円
(2) 発電用施設周辺地域振興基金積立事業 5億円

(3) 斐伊川放水路事業残土処理用地の取得 4億1400万円

県議会の動向、詳しい活動状況に興味ある方はアクセスを！



東日本大震災で被災された方の多くが通常生活に戻るまで十数年かかっています。一日も早い復旧と同時に、精神的苦痛から立ち直られることを心からお祈りします。

今回の震災は私たちの住む中山間地域に多くの教訓を与えています。高齢化した集落の点在▽体力ある若者の不在▽復旧の基盤となる建設業や食料品店の減少▽医療体制の脆弱さなど。こうした背景が進む中で、今回のような大災害が発生すれば、生命の力ぎを握る72時間内の人命救助や生活必需品の確保など初期対応をどうするのか、近所付き合いを含めた地域のコミュニティ力の大切さを痛感します。

1月14日、雲南市と飯南町で消防出初め式があり、飯南町の出初め式に出席しました。地域の生命と財産を守る崇高な使命を持って訓練し、災害発生時には最優先で現場に駆け付ける消防団員。その存在が安心して暮らせる環境を維持してくれていることに心より感謝をしています。

コロナ感染症から少し解放され、以前の賑わいが戻ってきました。穏やかな新年を迎えた元旦早々、能登半島を中心とした大地震で尊い命や財産が失われ、言葉が出ない惨事が起きました。道路や電気、水道など社会インフラの滅失。家屋の崩壊など生活基盤が破壊された被災地の方々を思うと心が痛みます。動脈である道路が分断され、数多くの孤立集落が発生。燃料や食料を人力で運ぶ自衛隊の奮闘ぶり。寒さの中で我慢されているお年寄りらの姿には、改めて災害時の大変さを思い知らされる日々です。



発行責任者 高橋まさひこ事務所

〒699-1251 島根県雲南市大東町大東1888 TEL.0854-43-8057 FAX.0854-43-6479

https://m-takahashi.jp info@m-takahashi.jp